

妙法ヶ岳山行報告（2024年5月3日（金・祝））

妙法ヶ岳は秩父の奥にある三峯神社の奥宮となる信仰の山である。昨年雲取山に行くときにその下を素通りしたので、今回はその山頂を目指すことにした。5月にはシャクナゲやミツバツツジが咲くというのでこの時期に行くことにした。ただGWと重なると混雑が予想されるので、平日の1日に行くことにしていた。ところが悪天候のため順延し、天気の良い3日に行くことにしたが、この日は祝日であることを軽く見すぎていた。

当日は7時02分池袋発の電車で西武秩父駅に向かった。8時44分に駅に着くと早くもバス停は長蛇の列で、増便は出るとのことだが座れそうもない。また、三浦さんは特急に乗ろうと思ったら満席で1本遅い電車となるためバスには間に合わない。幸い池田・伊藤・浮津と4人になるのでタクシーを利用することにした。陽田さんは三浦さんと同じ電車 came が、乗り切れないので申し訳ないが次のバスで来るようお願いした。

タクシーは快調に走り、先行したバスを追い越してこれは早く着きそうだ喜んでいたら陽田さんから電話が入った。次の10時発のバス（通常なら11時20分着）に乗ろうとしたら「渋滞で三峯神社に着くのが午後2時過ぎになりそうだ」と言われたので、あきらめて羊山公園の芝桜を見に行くとのことである。目の前の道路は空いているのでタクシーでよかったと喜んでいるうちに、目的地まであと3キロくらいの地点で突然渋滞が始まった。

終点の駐車場が満車なので、帰る車がないと先に進めない。まだ午前中とあって帰る車はほとんどなく、タクシーはピタリと止まってしまった。長距離でホクホクしていた運転手は表情が一変、「もう1時間早く来ないとダメなんだ、いつ着くかわからない」と愚痴りだし、降りて歩くように勧めてきた。あと2.2kmくらいの地点で10時30分に下車（ここまで13,300円）して車道を歩きだすと、すぐ後ろにいた路線バスからも大勢の乗客が降りてぞろぞろ歩き出した。今日は見事な快晴で日差しが強く、舗装道路は熱いくらいだが、空気がさわやかで（多少排気ガスはあるが）青空と新緑が美しい。道の両側には早くもツツジや八重桜の花が咲いており、渋滞でイライラするより歩くほうが気持ちいいねとのんびり歩いていくと11時20分に目的地の三峯神社バス停に着いた。

駐車場はもちろん満車でここまで車の列が連なっている。バスが来ないので帰りのバスもないと見えて、帰りのバスに乗りたいた人が長蛇の列を作っていた。予定より1時間遅れたし帰りのバスも気になるので、妙法ヶ岳登山を優先し花を見るのを後にすることにして11時25分に出発した。三峯神社参拝の人波と逆の方向に進むと登山の世界になる。ビジターセンターから登山道を進むと一面シャクナゲの木があり、多少の花が咲いている。

いよいよ山道に入るが奥宮への参道なのでよく整備されており、親子連れなど観光客の姿もちらほら見える。11時55分に鳥居のある分岐に着き、雲取山方面への道と分かれて左に入る。12時を過ぎたので空腹を抱えながら10分ほど行くとベンチがあったので軽食とする。さわやかな空気の中で食べるおにぎりはおいしいが、缶ビールもおいしかったそうだ。じっとしていると風が冷たく、脱いだ上着を再度着用して出発する。さらに進んで次のベ

ランチを過ぎ、12時45分に鳥居のある分岐に着いた。ここには東屋もあり両神山や浅間山も見えている。一休みしてよいよ今回の登山の核心部分に入る。

両側が切り立った狭い尾根道となり、岩場も現れだす。仮設（パイプ製）の階段をいくつか上り下りして山頂直下に着くと鎖が現れるが、それほど危ないわけではない。手すりのある鎖場をよじ登ると、13時15分に妙法ヶ岳山頂（1,329m）に到着した。狭い山頂は立派な奥宮が占領しているので、ここで昼食にするのは無理なようだ。それでも山頂からの見晴らしは良く、雲取山方面への尾根筋がはっきりと見えている。半年前にはあそこを（ひいひい言いながら）登ったなあと思うと感慨深い。

山頂からの景色を堪能し、記念写真も撮ったので35分下山する。最初の鎖場は安全第一と四つん這いになって後ろ向きに降りる。あとは来た道を逆に下り、パイプの階段を下り上りして14時に分岐に着いた。そのまま進んで14時05分から正式昼食とした。先ほどはビールしか飲んでいない人もいたので空腹が我慢できなかったそうだ。15分で食事は切り上げ、同じ道を下って15時05分に三峯神社バスターミナルに到着した。

20～30分先に行くところやツツジやシャクナゲの群生地があるそうなのだが、バス停にはバス待ちの人の長い列ができています。この時間になっても登ってくる車の列は途切れず、バスの時刻も不確定のようだ。幸い15時30分発のバスがあるということなので、花をあきらめてバスに乗ることにした。帰りのバスで下っていくと、朝の上りのタクシーを下車したあたりまでまだ車列は続いていた。バスは満員で座ることができず、眠いし疲れた体でくねくねの長い山道を立っているのはつらかった。1時間半近く立ったままで足が棒のようになって16時55分に西武秩父駅に着いた。特急列車にはすべて「満席」の表示となり、17時00分発の普通便があるので飯能まで行き車内で解散した。

本日は快晴で気持ちよく、新緑やツツジの花を楽しむことができた。妙法ヶ岳は標高差も少なく、久しぶりの山としては丁度よいコースであった。しかしながら大渋滞に巻き込まれ、ゴールデンウィークに行ったのは大失敗であった。混むだろうとは思ったが、これほど混雑するというのは想定外というか、見通しが甘かったというべきか。それでも往復で疲れはしたが、山の中は気持ちよく歩いて楽しい一日ではあった。

(伊藤)

写真：<https://youtu.be/dftvXGalcto>